

アルティマファイバー

アルティマファイバーは、森林発生材（伐採木・伐根材など）を特殊破碎し撥水防止加工された綿状の植物繊維です。

特徴

1

混合して使用

アルティマベースと混合して法面に施工すると、木本類や郷土種の発芽が著しく良くなります。

特徴

2

雑草防止効果

セメントなどの糊材と混合して法面や雑地などに吹き付けると、アルティマファイバーの繊維がセメントと絡み合っ土砂の流亡を抑え、雑草の繁茂を防ぎます。

特徴

3

経費を軽減

無機質系安定材を使用することで、1：0.8より緩勾配ならネットやラス網などは必要ありません。

アルティマファイバー（伐採木の粉碎物）は腐植していないのに、どうして植物が生えるの？

- 1 アルティマファイバーは、法面への吹き付け後に有用微生物群が分解する「木造の骨組」と考えてください。
- 2 アルティマベースは、右下の図のように何万年もかかって作られる森林土壌A層の濃縮された土壌です。
- 3 アルティマファイバーとアルティマベースを混合することによって、森林土壌のAo層と同じような土壌を形成します。
- 4 法面の植物の初期生育は、ほとんどアルティマベースに支えられ生育します。その後、アルティマベースの微生物効果により法面中のアルティマファイバーを徐々に森林土壌のA層に変化させます。
- 5 アルティマベースの有用微生物群の効果で、アルティマファイバーの植物生長阻害物質であるフェノール障害も緩和することができます。

チッ素不足について問題点と解決法

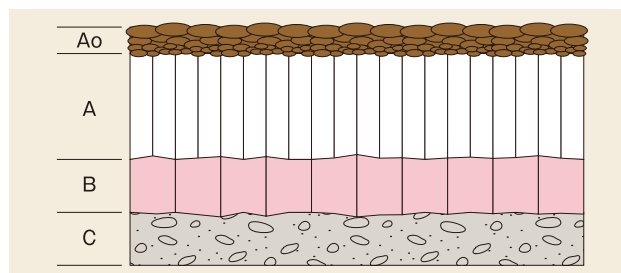
アルティマファイバー（伐採木の粉碎物）と植物において、チッ素の奪い合いは当然起こります。例えば畑作物では作物の葉が黄色（チッ素不足）になりますが、幸い法面の緑化には空気中のチッ素を固定する根粒菌の付くヤシャブシ・ハンノキ・ハギ類などが使用されており、チッ素不足を防止しています。

芝などのグラス類は、空気中のチッ素固定をしないので、アルティマファイバーとアルティマベースの混合比率においてアルティマベースの量を増加させるか、コーティング肥料や他の緩効性肥料を多めに入れることでチッ素不足を解決できます。



アルティマベースとアルティマファイバーを混合すると植物の生育が飛躍的に向上します。

森林土壌の生成



- Ao層** 森林土壌特有の落葉や落枝層であり、表層は新鮮な落葉が、その下部に微生物の付着した落葉が変色して堆積し、さらにその下部は土壌小動物の摂食した有機物の分解した腐葉と変化している。
- A層** 落葉・落枝などの有機物が滲透した土壌で、生物活性の旺盛な土壌であり黒色味を帯びている。養分に最も富んでいる土壌である。
- B層** A層直下の土壌で、生物活性は少ないが根系は発達している。
- C層** 土壌の母材であり、時には基岩が混じり岩石の風化した土層でもある。

【製造】

【販売】

NPO 法人日本パーク堆肥協会会員

FOREX 株式会社 FOREX トーリン

広島県三次市三原町16-1 TEL(0824)63-1819 FAX(0824)63-2751